

牛の分娩開始通知システムの開発

Development of notification system of cattle calving

宮川 大志、宮田 和弥、小野 浩之、平泉 真吾^{*1}

杉山 暢^{*2}、杉山 秀史^{*2}、杉山 弘昭^{*2}、小比類巻 正幸^{*3}

(^{*1} 畜産研究所、^{*2} 株式会社むつ家電特機、^{*3} 有限会社小比類巻家畜診療サービス)

ヒトの新生児の死亡率は 0.001% (10 万人に 1 人の割合) であるのに対し、牛の新生子牛の死亡率は 5% (20 頭に 1 頭の割合) と高い。これは、牛の体格が大型であることに起因しており、新生子牛の死亡事故が多いためである。このような分娩事故を未然に防ぐためには、人手による分娩介助が必須であるが、牛の分娩監視は深夜に及ぶこともあり、乳用牛・肉用牛の飼養農家における精神的及び肉体的な負担は大きい。このため、酪農・畜産農家において、牛の分娩開始タイミングを検出し、分娩介助者に通知可能なシステムに対する開発ニーズは非常に高く、既に分娩検知システムが市販されているが、システム価格が高額であり、普及は進んでいない。

本研究では、青森県内の農工連携体制（コンソーシアム）の取組により、低価格且つ高信頼性の牛の分娩開始通知システムの開発を行い、システムの製造販売及び普及を通じて、県内製造業者の売上拡大を促進するとともに、酪農・畜産業における生産性向上に資することを目的とする。

平成 28 年度は、昨年度までに開発した 1 次試作システムの改良を行うとともに、システム実証実験を行い、実用性に関する検討を行った。

